

いごいのみぎわ

天路歷程 ジョン・パニヤン

第41話

2022年8月28日～9月3日 各家庭でのディボーション用テキスト

それから、二人をさらにどう処分したらよいかと妻に聞いた。そこで、二人はどんな人間で、どこから来て、どこへ行くのかと聞いたので、彼はそれに答えた。すると彼女は、明朝起きたら、情容赦なく二人を打ち据えるがよいと勧めた。そこで彼は起きると、重い野生りんご樹の棍棒を持って来させ、土牢の中に下りて二人の所へ行き、彼らが一言も気に入らぬ事は言わないように、まるで犬でもあるかのようにどなりつけてから、飛びかかってひどくなぐりつけた。二人は身動きもできず、床の上で寝返りもできなかつた。これがすむと彼は引きさがって、あとに二人を残し、そこで身の不幸を慰め、苦難にあつて嘆くままにした。こうしてその日は一日中ため息とひどい悲嘆に暮れた。次の夜、彼女はさらに二人のことについて夫と相談したが、二人がまだ生きていと分かったので、自殺を勧告するよう夫に勧めた。そこで朝になると、以前のように邪険な様子で彼らの所に行き、自分が前日与えたむち傷のためひどく痛がっているのを見て言った。ここから出られる見込みがない以上、お前たちのとるべき唯一の道は、短刀か絞首索か毒薬で直ちに自決することだろう。生きることにはこれほどの苦痛が伴うことを考えたら、どうして生きることを選ぶことがあろう。



巨人絶望者は囚人たちを打ちたたく

しかし二人は放免してくれと願った。それを聞いて彼は形相もの凄く二人に迫った。もしいつもの発作（天気の良い日には時々発作が起きた）が起きて一時腕がきかなくなるようなことがなかったなら、きっと二人を殺してしまったであろう。そこで彼は引き揚げて、（以前のように）彼らがどうしたものかと考えるに任せた。それから囚人たちは彼の勧めに従うのが一番よいかどうかを相談して、次のように話合いを始めた。

基督者 兄弟よ、どうしたらよいでしょう。私たちの今送っている生活はみじめです。私はこんな生活をしているのがよいか、それともすぐ死んだ方がよいか分からないのです。「わたしの心は生きるよりも息のとまることを願う」。**【ヨブ7:15】**墓の方がこの土牢よりはまだ気楽です。巨人の言うことに従いましょうか。

有望者 なるほど現在の境遇は恐ろしい、こんな状態にいつまでもいるくらいなら死んでしまった方が遙かにありがたいでしょう。それでも私たちが行こうとしている国の主は、「あなたは殺してはならない」と言われたのを考えましょう。**【出**

20:13】 そう、他人を殺してはならないのですから、まして自殺せよという巨人の勧めに従うことは禁ぜられています。その上、人を殺す者は、その肉体を殺す罪を犯すだけですが、人が自分を殺すことは、肉体と靈魂を同時に殺すことです。それに兄弟よ、あなたは墓の中の方が安楽だと言われますが、人殺しが必ず行く地獄をお忘れですか。「人殺しは永遠の命を持たない」ですからね。私たちはまたすべての法律が巨人絶望者の手中にないことを考えましょう。私の理解し得るところでは、私たちのように彼に捕えられても、彼の手からのがれた者もあるのです。世界を造られた神がああ巨人絶望者を死なせるかもしれません。あるいは、いつか錠をかけ忘れるか、それとも暫くしたら再び私たちの前で発作を起こして手足が利かなくなるようなことがないとも限りません。もしそのようなことがまたいつか起こったら、私は男としての勇気を奮い起こし、全力を尽して彼の手からのがれようと覚悟しています。以前そうしなかったのは私がばかだったのです。とはいえ兄弟よ、辛抱して暫く我慢しようではありませんか。運よく逃れるときが来るかもしれません。自分を殺す者にはならないようにしましょう。有望者はこのように語って、さし当たって兄弟の心を和らげた。そこで二人はその日いっしょに（暗の中で）みじめな悩み多き状態で過ごした。

さて、夕方になって巨人は囚人たちが自分の勧めに従ったかどうかと思って、再び土牢の中に下って行った。しかしそこへ行ってみると彼らは生きていた。実際、生きていたというだけであつた。今やパンと水の欠乏や、彼になぐりつけられたとき受けた傷のために、虫の息であつたからである。しかしともかく二人が生きることが分かったので、彼ははげしく怒り出して言った。お前たちがおれの勧めに従わないからには、生まれて来なかった場合よりもひどい目にあわしてやるぞ。

これを聞いて二人は大いに震え、基督者は気が遠くなった。しかし少し生気づくと改めて巨人の勧めについて、それに従うのかよいかどうかと話し始めた。さて、基督者は再びそうすることに賛成のようであつたが、有望者は次のように二度目の返事をした。

有望者 兄弟よ、あなたが今までどんなに勇敢であつたか覚えていないのですか。アポロンもあなたを粉碎できなかつた。また死の陰の谷で見たり聞いたり感じたりした一切の物もあなたを打ち負かすことはできなかつた。何という艱難と恐怖と驚愕をすでに切り抜けてきたことでしょうか。それなのに今はただ恐怖あるのみですか。ご覧のとおり私は同じ土牢に入っています。生まれつきあなたより遙かに弱い私が。またこの巨人はあなたと同じように私を傷つけ、パンと水とを私の口からも断ちました。そしてあなたといっしょに光明もなく嘆いているのです。ですが、もう少し忍耐しようではありませんか。思い出してもご覧なさい。あなたが空の市でどんなに雄々しく振舞って、鎖も檻も、無残な死さえも恐れなかつたことを。だからできる限り忍耐して（少なくとも、クリスチャンとしてふさわしくないと見られる恥を避けるためにも）辛抱しようではありませんか。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい